

令和7年度
最終（後期）学校評価



文化祭



体育祭



愛校作業（おやじの会）



地区別集会

コミュニティ・スクール
太宰府市立太宰府中学校

1 学力向上に関する評価について

【評価】

- 教職員の自己評価において、「学習内容を振り返る場（『まとめ』の場）を設定し、生徒が『わかった』『できた』等を実感できるようにしている」という項目の評価が低い結果となっている。このことは、授業終末における振り返り活動の充実が十分でない可能性を示唆している。また、本課題は小学校においても同様の傾向が見られており、校種を越えた共通課題であることが明らかとなっている。学習のまとめや振り返りを通して自己の理解度を自覚させることは、主体的な学びや学習意欲の向上、さらには学力の定着にも大きく関わる重要な要素である。今後は、小中連携して本課題を共有し、授業終末の在り方や振り返りの具体的手法について協議を深めるなど、同一の方向性（ベクトル）のもとで組織的に改善を図っていく必要がある。
- 授業における振り返りの場の設定については、評価結果を経年で見ると、数値が継続して低い傾向にある。本年度は45分授業へと移行したことにより、授業終末に十分な振り返りの時間を確保することが一層難しくなっている可能性も考えられる。また、例年、生徒による評価よりも教職員による自己評価の方が低い傾向が見られる。これは、教職員自身が授業改善に対して高い意識をもち、より質の高い振り返り活動を目指していることの表れとも捉えられる。自己評価を厳しく行っている点は改善に向けた意欲の高さを示すものとして評価できる。今後は、限られた授業時間の中でも効果的に振り返りを行う具体的な手法を共有し、授業構成の工夫を図ることで、振り返りの質の向上につなげていく必要がある。
- 生徒による授業評価は、100点満点に換算すると90点前後と高い水準にあり、おおむね良好である。授業参観や学校行事等で生徒の様子を参観する中で、教師と生徒との信頼関係が良好に築かれていることが伺える。また、若手教員が多い中であっても、日々熱心に授業改善に取り組む姿が見られ、前向きな教育活動が展開されていると評価できる。一方で、これらの取組が学力の向上や学習習慣の定着に十分結び付いているかについては、さらなる検証が必要である。保護者による評価の中で「お子様は意欲的に学習に取り組んでいると思いますか」「平日の家庭や塾での学習時間はどのくらいですか」といった項目の評価が相対的に低いことは、その課題を示唆している。また、教師による評価においても「家庭学習の定着に向けて継続的に指導を行っている」の項目が低い結果となっている。ただし、家庭学習の実態は学校では把握しにくい側面がある。そのため、今後は評価項目の見直しを行い、「家庭（保護者）と生徒が学習について話題にしているか」など、家庭との連携状況を把握できる視点を加えることで、課題の要因をより具体的に分析できるのではないかと考える。

2 心力の育成の評価について

【評価】

- 地域の立場から中学生の様子を見ると、部活動や塾等で多忙な状況にあるにもかかわらず、地域行事や活動に積極的に参加している姿が見られる点は評価できる。今後は、単に参加を促すだけでなく、活動の中で具体的な役割や責任をもたせることにより、主体性や責任感の育成につながると考える。実際に、役割を担うことで参加意欲が高まり、継続的な関わりへと発展している様子も見受けられる。地域と学校が連携し、生徒に適切な役割を位置付けることで、自己有用感の向上や社会性の育成につながる取組として、今後も充実を図っていくことが期待される。
- 挨拶については、学校内ではおおむね良好に行われている様子が見られる。一方で、地域においては十分に挨拶ができていない場面もある。この課題については、学校のみでの指導に任せるのではなく、家庭における日常的な声かけや生活習慣とも深く関わっていることが考えられる。挨拶や基本的なマナーは、本来、家庭生活の中で培われる側面が大きいものである。したがって、学校だけに役割を求めるのではなく、保護者との連携を図りながら、家庭と学校が共通理解のもとで継続的に育成していくことが必要である。

3 市民力の育成に関する評価について

【評価】

- 地域行事の運営については、自治会（地域）、子ども会（家庭）、地域親善大使（学校）の三者が連携して取り組んできた経緯がある。コロナ禍以前は、三者間の意思疎通が円滑に図られ、協働体制が機能していたように見受けられた。しかし、ここ数年は参加体制の変化も影響し、三者間の連携や情報共有が十分とは言えない状況があると感じられる。活動の継続性や役割分担の明確化、情報伝達の在り方について、改めて見直す必要がある。今後は、三者が定期的に協議する場を設けるなど、連携の再構築を図り、地域行事を通じた生徒の成長を支える体制を整えていくことが望まれる。
- 地域で年1回実施されている資源回収（地域学校協働活動）については、保護者間で連携・協力体制が整えられており、円滑に運営されている点が評価できる。学校としても、その協力体制に支えられており、大変ありがたい取組である。今後も、地域と保護者の連携を大切にしながら、継続的な協力関係を築いていくことが望まれる。

太宰府市立太宰府中学校 評価結果を受けた改善計画

＜改善計画＞	
種類	内容
自校で改善できる内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校としては、授業終末における振り返り活動の充実を研究推進委員会で協議していき、終末場面の共通モデルの確立、振り返りの在り方、校内研修および小中連携による共通理解の形成を通して、組織的な改善を図っていく。 ○ 45分授業への移行を踏まえ、授業終末の時間確保を前提とした授業構造の見直しを行うとともに、短時間でも効果的な振り返りの在り方を校内で共有する。授業研究において終末場面を重点化し、教職員の高い改善意識を組織的実践へとつなげることで、振り返りの質の向上を図っていく。 ○ 生徒による授業評価は高水準にあるが、学力および家庭学習の定着との関連についてはさらなる検証が必要である。今後は、家庭学習指導について保護者との連携強化を図るとともに、評価項目の見直しを行い、課題の要因を具体的に分析しながら改善を進めていく。
地域の協力を得ながら改善していく内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域行事への参加を通して主体性や責任感を育成するため、地域と学校が地区別集会等を行い、生徒に具体的な役割を位置付ける取組を推進する。また、活動後の振り返りや成果の価値付けを充実させることで、自己有用感や社会性の育成につなげていく。 ○ あいさつの習慣化に向け、学校内での指導を継続するとともに、地域と協働しながら基本的な生活習慣の定着を図っていく。
教育委員会の支援を得ながら改善していく内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民生委員の方から、中国籍の生徒の学校での様子や支援の在り方についてご質問をいただいた。今後の支援については、教育委員会と十分に連携を図りながら、より適切な支援の在り方について検討し、改善を進めていく。 ○ 本年度は教職員1名の人員配置が充足していない状況であった。人員配置の適正化については、今後、教育委員会と十分に連携を図りながら、早期の改善に努めていく。 ○ より安心・安全な教育活動ができるように、必要な施設整備、環境整備を進めていく。